

第六於九条

本条第一項及び第二項ハ用益者ニ權利ヲ拒絕  
 スルモノナルカ故ニ本款ニ記載スヘカラザルモノ  
 ニ似タリ又後二項ハ次款ニ於テ提列スル如ク義  
 務ヲ用益者ニ負ハシムルモノニモ非ラズ故ニ  
 第四款即チ用益権消滅ノ事項ニ之ヲ記スルコ  
 トヲ得心シト為モ用益者ノ權利ヲ規定スルコ  
 当リテハ用益権ノ終了スルトキ用益者ニ屬ス  
 ル如キ權利ニシテ法律上之ヲ拒絕スルモノ  
 ヲ共ニ明示スルハ致テ其者ヲ得ガルモノト謂

フコトヲ得之又本年末項ハ重要ナル権利ヲ用  
益者ニ認許スルモノナレバ此一事モ本年ノ位  
置甚宜シキヲ得タルコトヲ證スルニ足ルベシ  
本年三項ノ規定ハ凡テ之ヲ證明スルコト甚如  
容易ナリ

其方一項ハ已ニ證明シタル第五於本年二項ト  
相對照スルモノニシテ且ツ其結果ト稱スルコ  
トヲ得ルニ即チ用益者ハ收益ヲ始ムル當時ニ  
於テ多少成熟ノ時期ニ至ルキ又ハ收穫物アル

トキハ其耕作ノ費用ヲ耕フコトナリシテ之ヲ

收取スルニトテ得ルガ故ニ其用益權ノ終了ニ

トキハ其耕作ノ費用ヲ耕フニトナリシテ之ヲ  
收取スルニトテ得ルガ故ニ其用益權ノ始ラシ  
タルトキニ当リ未ダ土地ヲ致シガハ收穫物ア  
ルバシ又之ガ負担ノ條件アラハ殘ニ置カザル  
可カラサルナリ

若シ嚴正ノ公義ニ基クトキハ右二個ノ場合ニ  
於テ法律ノ規定スル所ト異ナル辯論ヲ取ルハ  
キモノナシトシ然レトモ罷馬法以來實際ノ利  
益ト簡便トノ理由ニ基キ煩雜困難ニシテ且ツ  
屢爭訟ノ原トナルハキ西度ノ計弄ヲ辭ケニガ  
為メ偶然ノ事ヲ以テ利害ヲ決セシムルコトハ

為セリ蓋し用益權ハ元來終身ヲ限ル權利ナリ  
 カ故ニ其性質上既ニ射倖ノモノナリ茲ヲ以テ  
 更ニ弊害ヲ生ズルコトナク以上ハ此射倖ノ性  
 質ヲ以テ愈ヨ大ナラシムルコトヲ得心ニ即チ  
 用益權ハ收獲ノ後ニ了ハルコト有ルベク又收  
 獲ノ前ニ了ハルコトモ有ルベシ是レト曰ヒテ  
 始メテ於テモ用益權ニハ幸不幸ノ運アルベシ  
 是レ遺言ヲ以テ用益權ヲ設定シタル場合ニ於  
 テ看入所ナリ何トナレバ此場合ニ於テハ遺言  
 者ガ收獲ヨリ僅カ以前ニ死亡スルコト有ルベ

ク又收獲ヲ終リテ直チニ死亡スルコト有ルベ

者が收穫ヨリ僅カ以前ニ死亡スルニト有ルベ  
ク又收穫ヲ終リテ直午ニ死亡スルコト有ルベ  
クシテ而シテ用益権ハ遺言者ノ死亡ノ時ニ生  
スルモノナレバナリ

又当事者ハ常ニ合意ヲ以テ右ニ掲ケタル法律  
ノ規定ト異ナリタル条件ヲ定ムルコトヲ得ハ  
シ例之ニ賣置ヲ以テ用益権ヲ設定スル場合ニ  
於テ賣主ハ代價額ヲ定ムル為メ其費用ヲ以テ  
生セシメタル收穫物ノ仍ホ土地ヲ譲ルサレモ  
ノヲ算入セシメ又買主ハ之ニ及ビテ收穫前ニ  
用益権ノ終ラスルトキハ果實ノ一方ヲ相續人

ニ附契之ハキ旨ヲ要約スルカ如キハ固ヨリ当  
約ニ其友ニ得心キ所ナリトス

本条亦ニ項ノ規定ハ用益者ガ用益物ニ為シタ  
ル改良ニ付キ何等ノ賠償ヲモ認ムルコト能ハ  
サルモノト定メタリ此ノ如ク用益者ニ権利ヲ  
拒絶シタル所以ノ者ハ蓋シ用益者ハ自己ノお  
ニ改良ヲ有シ而シテ多少久シク之ヲ收益シタ  
ルモノト推定スルノミナラズ仍ホ此改良ニ付  
キ虚取者ニ對シ賠償ヲ求ムルコトヲ得カラシ  
メテ以テ争訟ヲ避ケンカ、有ナリ

此規定ハ用益物トシテ一率ヲおセリト云フ

又テ以テ争訟ヲ隣ヶニカケルナリ

此規定ハ用益物ト鉅シト一併ヲ為セリト云フ  
コトヲ得ルキ住居ノ修飾及ビ改良土地ノ改良  
開墾及ヒ地均ラシ等ニ適用スルキナリ

然レトモ用益物ト至ク一併ヲ為シタリト謂ハ

ンヨリモ寧ロ之ニ附加シタル改良ニシテ豈換

ナク用益物ヨリ分離スルコトヲ得ルキモノニ

至テハ更ニ虚有者ノ利得ニ歸セシムルキ理由

アリザルナリ故ニ此等ノ物ニ至テハ用益者ヲ

以テ之ヲ除去スルコトヲ得セシメタリ惟此場合

ニ於テハ用益者ハ此附加物ヲ除去リタル後用

益物ヲ舊状ニ復スルノ責アルモノナリ  
第七卷

然レトモ用益者が前条ニ掲ゲタル附加物ヲ取  
去ル場合ニ於テハ一般経済上ノ利益ニ関スル  
附随生ス而シテ此利益タル事ニ此場合ニ止ラ  
ズ仍ホ他ノ場合ニ於テ其富用ヲ着ルベシ即チ  
建物の之ヲ築造シタル以上ハ取毀ツコトナキ  
ヲ必要トシ又竹木ハ栽植シタル以上ハ之ヲ拔  
キ取ラサルヲ可ナリト为ス何トナシハ取毀キ  
及ビ拔取リノ爲ニ手割ヲ損スルノミナラズ仍

ホ其建築及び栽植モ無用ニ爲スルガ故ニ其手



凡に採取リノ由ニ手間ヲ換之ルノミナラズ、仍  
亦其建築及び栽植モ無用ニ帰スルガ故ニ其手  
間モ亦損失ニ帰ス茲ヲ以テ二重ノ手間ヲ換ス  
ルノミナラス、仍亦之ガ由ニ材料ノ毀換ヲ致ス  
モノナリカ故ニ勤メテ之ヲ避クルヲ以テ利益  
アリトス

故ニ所有者ガ其土地ニ存スル工作物ヲ保存ス  
ルハ尤モ期望スベキモノナリ蓋ニ所有者ニ於  
テ之ヲ保存セント欲スルトキハ其期望ハ實ニ  
正當ノモノト認ム可カラス何トヤレハ其  
工作物ガ所有地内ニ存スルノミナラス、仍亦之

ヲ取毀ツトキハ繼令一時ナリト多クハ必ズ其土  
地ノ毀換ヲ来スベケレハナリ之ニ及コテ用益  
者ハ固ヨリ工价物ノ権利ヲ有スルモノナリト  
多ク其権利ナルヤ惟工价物ヲ組込ルハ材料ヲ  
撤去シ若クハ栽植シタル竹木ヲ採取ルニ在リ  
テ莫ク金錢上ノ利益ヲ有スルニ及ギス蓋テ以  
テ用益者ニコテ相当ノ賠償ヲ得ル以上ハ之ヲ  
所有者ニ保存セシムルモ決シテ不当ノコト、  
謂フ可カラス而シテ右ノ賠償ナルヤ現ニ建物  
及ビ竹木等ノ存スル所ニ土地ノ増價ヲ生シタ

及心竹木等ノ存スルおハ土地ニ増價ヲ生心ス

ル款ニ均シキトキハ必ズシテ用益者が盡ヤシ  
又ハ所ノ是用如何ニ拘ラズ相当ノ賠償ト認ム  
サルヲ得ス法律が茲ニ当初ノ費用ヲ計算スル  
コトヲ許サツルモノハ之がおニ無要ニシテ煩  
雜ナル手数ヲ要スル故ニシテ蓋シ建築等ノ費  
用ハ元利射利ノ目的ニテ爲シタルモノ、外大  
概之がおニ其土地ノ變クル所ノ増價款ヲ超過  
スルモノナレバナリ

右ニ述バム如クナルヲ以テ此場合ニ於テハ所  
有者ヲシテ他人ニ先ツテ之ヲ買取ルコトヲ得

セシメ即チ之ニ其フルニ先買ノ権ヲ以テスル  
ト至当ノ事ニシテ所有者ガ正當ノ権利ヲ凡所  
ナリ

此事タルヤ一方ニ於テ所有者ノ有スル處分ノ  
権利ニ法律上一巳ノ制限ヲ加ヘタル場合ノ一  
例トおエヨウ心ニ何トナシハ用益表ハ其おニ  
又ハ遺築又ハ植栽ノ完全ナル所有権ヲ有シ  
者ヲ三十条馬通ノ原則ニ從ハル之ヲ權限ナルト  
云トハ至ク其任言ナルベキニ此場合ニ於テハ  
虚有者ノ先買権ニ對抗スルコト能ハサシハナリ

法律ハ先買ノ権利ヲ土地ノ所有者ニ與ヘタリ

產有希ノ先買權ニ對抗スルコト能ハサシハナリ

法律ハ先買ノ權利ヲ土地ノ所有者ニ與ヘタリ

ト多ク唯之ヲ與ヘテ所シテ其行使ヲ規定スル

ニトキキトキハ或ハ正當ノ程度ヲ超エテ利益

者ノ利益ヲ害スルコト甚カシカレバ之是レ本

条末段ノ三項ヲ設ケタル所以ナリ

用益者ハ所有者ノ先買權ニ抗スルコト能ハズ

ト至モ若シ所有者何時ト至モ此先買權ヲ主張

スルコトヲ得ルモノトセバ用益者ハ甚カク困難

ナル心シ何トナシバ均シク其所有ニ屬スル產

物等ヲ他人ニ讓渡スルコト能ハカシ可ケレバナ

リ故ニ所有者ノ先買權ハ其行使ノ時期ヲ定メ  
之ヲ返キタルトキハ先買權消滅スルモノト定  
ムルコトヲ要ス然レニ此先買權ハ用益権消滅  
ノ時ニ於テ始メテ行フコトヲ得ヘキモノナリ  
故ニ右ノ如限モ亦用益権消滅ノ後ニ起算スル  
コトヲ要ス然レニ用益権ノ消滅ハ所有者之ヲ  
知ラザルコトアリ此故ニ先買權ノ行使ニ笑ス  
ル期限ノ進行ヲ始メシムルニハ用益者又ハ其  
相統人ガ所有者ニ用益権ノ消滅シタルコトヲ  
通知シ而シテ所有者若シ先買權ヲ行ハコト欲

セバ其事ヲ述ブヘキ旨ノ催告ヲ裁判外ノ法式

通知に而して所有者若し失費権ヲ行ハスト候

セバ其事ヲ述ブ心キ旨ノ催告ヲ裁判外ノ法式

ヲ以テ告ス心キモノトス

用益権ヲ消滅セシメタル原因が務正大(塵)有者

ノ知ル所ナリヤ否ヤハ法律ニ於テ之ヲ區別セ

ズト多ク右ニ述ブ人所ニ申テ考フルモ法律ノ

務種ニ用益権消滅ノ原因が法律上存在者ノ知

ラケル所ノモノナルトキニ限り前ニ掲ケタル

催告ヲ必要ト告ヌノ三故ニ用益権が務正メ定

メタル期間ノ満了ニ因テ消滅シタル如キ場合

ニ於テハ此催告ヲ告スニト必要ナラザルベシ

又用益者カ收益ノ濫妄ヲ爲シタル者ハ第百〇  
四条ノ規定ニ從ヒ虚有者ノ請求ニ由テ用益権  
ノ廢罷ヲ致シタル場合ニ於テ又仍ホ催告ヲ必  
要トセザルコト勿論ナリ

之ニ及ビテ用益者死亡シタルハ由ニ用益権ノ  
消滅ヲ致シ又ハ虚有者ニ至リ關係ナキ未必要  
件ノ成就ニ由テ用益権ノ解除ヲ致シタル如キ  
場合ニ於テハ虚有者ハ此消滅ヲ知ラザルコト  
明カナラハ故ニ必ズシテ先買権ヲ行フヤ否ヤ  
ヲ催告スルコト必要ナリ

虚有者が先買権ノ行使ヲ為スト爲サザルトノ



ヲ催告スルコト必要ナリ

専有者が先買権ノ行使ヲ為スト為サシルトノ  
間ニ擧擧ヲ為スニハ惟十日間ノ猶務ヲ要スル  
ノ之而シテ此期間ハ法律ヲ以テ一定ニスル所  
ノモノニシテ且ツ特ニ用益者ノ催告中ニ之ヲ  
指定セサル時ト為マ異ナルニトナシ蓋シ所有  
者ハ法律ノ之ニ異ハタル期間ヲ自カラ知ラサ  
ル可ケレハナリ

凡テ法律上ノ期間ヲ定ムルニ當リテハ必ズ後  
少立法者ノ專断ニ出ツル如キモノ有リト為モ  
本条ノ場合ノ如キ一方ニ於テハ先買権ヲ行使

スルコトヲ得ル時期ニシテ甚カ長キニ過カ  
トキハ用益者又ハ其相饒人ノ利益ヲ害スルコ  
ト甚カ大ナルノ三十ラズ一方ニ於テ産有者ハ  
未タ用益権消滅セザル時ヨリシテ自己ノ土地  
ニ用益者が及シタル建築及以栽植アルコトヲ  
知ラケル如キコト莫カルハキガ故ニ豫シメ用  
益権消滅ノ時ニ於テ先受権ヲ行フヤキヤ否ヤ  
ヲ思考シ置クコトヲ得ル心ニ故ニ此ノ如ク法律  
上ノ如クテ定ムルモ決シテ所有者ノ為ニ甚カ  
不都合ヲ来スコトナシ

或ハ用益権消滅ノ時ニ當リ所有者ハ失業者ナ

不許言ヲ奉之ニトナシ

或ハ甲益権限域ノ時ニ當リ所有者ハ失蹤者ナ  
ルコト有ルヲ得マシ此時ニ當リ仍ホ有ノ如ク  
ヲ徑過シタルトキハ失置権ヲ行フ能ハサルモ  
ノトスルコト甚カク當ヲ得サシ如シト云モ所  
有者久シク其家ニ歸ラサルトキハ失置権ノ行  
使ニ當スル備先ニ善人ハ亦メ権限ヲ有スル代  
理人ヲ定メ置クヲ以テ至當ト為ス然ルニ此注  
意ヲ為サズシテ自カク権利ヲ失フニ至ルハ法  
律ノ知ル所ニ非ラサルナリ  
備先ヲ受ケタル後所有者ニ於テ失置権ヲ行使

ズルコトヲ陳心又ハ之ヲ行使セザルコトヲ陳  
心又ルトキハ論十ニト至モ若シ何事ノ言ヘテ  
爲カズシテ十日ノ期間ヲ経過セシメタルトキ  
ハ先買ノ権利ハ當否之ヲ喪失スルモノト爲ス  
總令所有者ニ於テ先買權ヲ行使スルコトヲ述  
ベタルトキト至モ仍ホ此陳述ハ用益者又ハ其  
相譲人ヲシテ並キニ建物及ヒ栽植権利ヲ失ハ  
シタルモノニ執ラズ此ノ如クナルニ人必ズヤ  
失ツ處有者ガ建物及ヒ栽植ノ代價ヲ兼濟シタ  
ルコトヲ必要ト爲ス若シ此兼濟ヲ爲サザルト

キハ先買權行使ノ陳述アルニ基テ取得ハ

ルニトヲ又要ト為ス若シ此年清ヲ為サニト

キハ先買権行使ノ陳述アルニ之ニ基ク所得ハ

至ク回收セラル心シ又所有者ヨリ年清ニベキ

代價ニ当事者が協議ヲ以テ之ヲ定メ得ベキコ

ト勿論ナリトモ若シ此協議成ラザルトキハ

裁判所ニ鑑定人ニ評價ヲ為サシメタル上之ヲ

決定ス心シ此決定ハ凡テ裁判所ノ下シタル他

ノ判決ノ如ク上訴ヲ為スコトヲ得ベシ若シ此

上訴ヲ為サズシテ此判決確定シタルトキハ所

有者ハ即時ヨリ一ヶ月内ニ代價ノ年清ヲ為ス

コトヲ要ス若シ此年清ヲ為サニトキハ又先

買ノ權ヲ失フベシ

然レトモ一ヶ月内ニ代價ノ年済ヲ爲サハル者

メ先買權ヲ失フハ所有者自カラ引渡スルコト

ヲ得心キ権利喪失ノ法律上ノ期間ヲ定メタル

モノニ執ラズ若シ所有者自カラ此年済ヲ怠リ

タル爲ニ之ヲ理由トシテ賣買ノ解除ヲ求ムル

コトヲ得ルトセバ何人モ自己ノ過失ヲ理由ト

シテ主張ヲ爲スコトヲ得ズトノ系則ニ及スル

モノナリ此規定ハ至リ双務契約ノ場合ニ於テ

一方ノ此義務ヲ履行セサル時ハ他ノ一方ノモ

一方ノ此義務ヲ履行セサル片ハ他ノ一方ノモ

ノハ之ヲ理由トシテ其辭断ヲ求ムルコトヲ得  
ルト然ニド相類セル精神ニ出デムルモノナリ  
ガ故ニ所有者ガ代價ノ糸濟ヲ為サツル場合ニ  
於テ其失権ヲ宣告セシムルト知ラヌニテ單ニ  
糸濟ノ要求ヲ為ス等ニ一ニ用益者ノ專ラ有ス  
ル権利ナリトス

用益者又ハ其相僭人ガ先買権ノ喪失ヲ請求シ  
タル場合ニ於テハ猶ホ所有者ニ對シテ損害ノ  
賠償ヲ求ムルコトヲ得ベシ何トナシハ法律ノ  
定メタル期間ノ満了マデ所有者ノ糸濟ヲ待テ

又ルカ亦メ他ニ利益アル條件ヲ以テ產物及ビ  
栽植ヲ棄却スル權云ヲ失ヒ爲ニ損害ヲ受クル  
コト有ル心个シ心ナリ又用益者若クハ其相續  
人ニシテ代價ノ兼濟ヲ受クルニ失テ產物ヲ  
所有者ニ引渡シタル場合ニ於テ所有者加之ヲ  
毀損シ又ハ其他ノ濫用ヲ爲スノ憂ヘシキコト  
能ハズ故ニ法律ハ此ノ如キコト榮カラシムル  
爲メ用益者又ハ其相續人ハ代價ノ兼濟ヲ受ク  
ルマテ其產物ノ占有ヲ爲スノ權利アルモノト  
セリ此權利ハ獨リ本条ノ場合ノミナラズ凡テ

法律上多クノ適用ヲ受クルモノニシテ留置權



セリ此權利ハ独リ本条ノ場合ノミナラズ凡テ

法律上多クノ適用ヲ受クルモノニシテ留置権  
ト名ク是レ物上担保ノ一種ニシテ本編第二章  
ニ掲グル所ノモノナリ

所有者ノ先買権ニ由テ譲受ケル人所ノモノ軍  
ニ栽植ノミニ止マルトキハ用益者又ハ其相続  
人ハ其代價ノ弁済ヲ受クルマデ土地ノ占有ヲ  
為スコトヲ得ズ何トナレハ法律ガ留置権ヲ與  
ヘタルハ單ニ建物ニ止マシムナリ

第三款 甲益者ノ義務

第七十一條

本全に於て用益者が調製スル義務ヲ明カニシ  
タル動産ノ目的及び不動産ノ形状書~~書~~虚有者ノ  
為メ必要ナル担保ナリ然レドモ又用益者ノ為  
ニモ有益ナルモノナリトス蓋シ一方に於テハ  
所有者が権利ノ在人所ヲ明カニスルモノナリ  
トモモ猶モ同時ニ所有者ノ請求し得ルキ所ヲ  
明カニシ用益者ヲシテ不当ノ要求ヲ受ルハコ  
トヲ得セシムルハナリ

用益権行使中ハ其目的トスル所ノモノ至ク用  
益者ノ占有スル所ナルヲ以テ用益者が或ハ悪

意ナルト又或ハ罪ニ解多ク出ツルトシテ

益者ノ在ラスル所ナルヲ以テ用益者カ感ハ悪

意ナルト又或ハ畢ニ懈多ク出ツルトテ附ハズ  
之ヲ毀損スルコト決ミテ難カラザルナリ此之  
ナラズ不郵産ニ在ラテハ用益権終了ノ時之ヲ所  
有者ニ返還スルニ當リ当初ノ負數及ビ其品格  
ヲ知人コト甚カ困難ナルベシ而シテ是レ実ニ  
争訟ノ原因タル心キモノナリ本条ニ規定スル  
所ノモノハ之ヲ避クルガ為ニ必要ナリトス  
形状書トハ不郵産ノ実質有形ノ形状ヲ認識シ  
タルモノナリ故ニ其不郵産ハ新々ニ修繕ヲ加  
ヘラシタルモノナリヤ又ハ之ニ及ミテ毀損シ

又ハモノナリヤ將久如何ナレ部方ニ流テ采多  
ノ修繕ヲ加ヘ又ハ如何ナレ左ニ於テ承神  
ノ毀換ヲ考シ又ルヤ等ノニトヲ之ニ記載スル  
モノナリ用益者ノ調製シ又ハ目錄及ヒ形状書  
ガ虚有者ニ對シテ有効ニ對向セラルルニトヲ  
得ルニハ此等ノ書類ヲ調製スル時虚有者ガ立  
書ヒ又ハコトヲ必要ト為ス若シ然ラザルモ猶  
ホ法律ノ定ム人所ニ從ツテ之ヲ~~●~~喚ビ又ハコ  
トヲ必要ト考ス茲ニ出テスレテ用益者一人ニ  
テ任意ニ之ヲ調製スルモ虚有者ニ對シテ何等

テ任意ニ之ヲ調製スルニ虚有者ニ對シテ何等

ノ効力ナシ何トナレバ何人ト對モ自己ノ為ニ

自中ヲ證據ヲ作ルコト能ハサレハナリ

并七共ニ糸

当事者相方カ目録及ヒ形状書ノ調製ニ立會ヒ

又ハ場左ニ於テ若ク能力者ナルトキハ總令私

署證書ヲ以テ右ノ書類ヲ作り又ハ時卜至天仍

モ当事者間ニ於テ有効ナルハ勿論他日其相統

人又ハ承継人ニ對シテモ亦ハノ効力ヲ有スル

モノナリ然レニ当事者ノ一方ガ立會ヲ為サハ

ルカ又ハ立會ヲ為スモ能力者ニ批ラサントモ

ハ心不目録及ビ形状書ハ公正證書ヲ以テ之ヲ  
作ルコトヲ必要ト爲ス

未成年者ハ有節ニ其後見人ヲ以テ代理セシム  
ルコトヲ以テ夫婦ニ因テ代理セラルハコト  
ヲ以テ心不目録及ビ形状書ハ代理人ト本人ノ利益が互  
ニ相及セザルコトヲ必要ト爲ス例之ハ一人が  
用益者ニシテ一人が所有者ナル如キ場合即チ  
是レナリ

第七十三條

已ニ條則算十八條ニ於テ述ベタル如ク代替物ト

ハ同種類ナル他ノ物ヲ以テ之ニ代用スルコト

日ニ從則算十人等ニ於テ此ハ如何ノ代替物ト

ハ曰種類ナシ他ノ物ヲ以テ之ニ代用スルコト  
ヲ以心キ性質ノ天ノナリ故ニ代替物トハ量定  
物ニシテ即チ其種類、重量、数量又ハ尺度ヲ指定  
セラレタル所ノモノナリ一回ノ使用ニ由テ消  
費スルモノハ概シテ此性質ヲ有スレトモ仍ホ  
其以外ニ於テモ此性質ヲ有スルモノ有ルコト  
ハ第於七条及第於八条ノ下ニ於テ已ニ之ヲ説  
ケリ

又第廿五条ニ依シテ用益物カ代替物ナルト  
キハ用益者ノ權利ハ至ク所所有者ノ權利ト同一

ニシテ用益権消滅ノ時曰一ノ物ヲ返還スル義  
務アルニ止マシ

用益権ノ目的物が特定物ナルトキハ目錄ニ於  
テ其種類形状及び固有ノ品質ヲ記載スルコト  
ヲ必要トス又此一事ヲ以テ且シリト爲ス或ハ  
用益物ニ記号又ハ印證ヲ附シテ他ノ類似ノ物  
ヲ以テ之ニ代フルコト能ハザラシムルモノ固ヨ  
リ爲シ得キ所ナリ特定物ヲ以テ用益物ト爲  
シタル場合に於テハ其評價ヲ爲スコト必要ナ  
ルモノニ執ラズ惟高シ場合に於テハ評價ノ有

益ナルコト有ルニ依リテ別ニ記号スルモノ又



ルモノニ執る不惟或ハ場合ニ於テ其評價ノ有

益ナルコト有ル心キノ三例五ハ物ヲ示サズ又

ハ物ニ毀損ヲ生シタル如キ場合是ナリ故ニ評

價ハ通常目録中ニ於テ当事者ノ為ス所ナルハ

ニ

然レドモ代替物ニ在ツテハ其評價ハ右ノ場合

ニ比シテ一層利益ニシテ又短シド必要ナリト

云フヲ得ベシ美シ評價ハ物ノ品質ヲ定ムルニ

尤モ簡易ニシテ且ツ尤モ正確ナル方途ナレハ

ナリ

代替物ノ用益権ノ時当事者ニ於テ為サシメ又

ル用益物ノ評價ニ用益物ヲ用益者ニ賣渡シ又  
ル効力ヲ生ズルモノナリ而シテ評價ノ金額ニ用  
益者ニ於テ恰モ買主ノ人時ノ如ク之ヲ并濟ス  
ルノ義務アルモノナリ惟即時ニ之ヲ并濟スル  
ニ非ズルニテ用益権消滅ノ時ニ至リ始メテ賣有  
者ニ之ヲ請求スルコトヲ以テ心キノミ

然リトモ又此場合ニ於テ當事者ノ意思如何ニ  
從ヒ或ハ評價ニ賣置ノ性質ヲ有セザラシムル  
コトヲ得心シ又之ト同シク特定物ノ用益権ノ  
場合ニ於テ當事者ハ評價ニ賣フルニ此性質ヲ

以テスルコトヲ得心シ例ニハ私法其他使用ヲ

場合ニ就テ当事者ハ評價ニ契ルニ此性質ヲ

以テスルコトヲ得心ニ例スルハ其使用ヲ  
因テ容易ニ野放スルモノ、用益権ノ場合ニ於  
テハ鑑定特生物ナリト爲トモ仍チ用益権消滅  
ノ時現物ヲ以テ返還ヲ受ケルニ代償ヲ償還セ  
シムルコト当事者ノ便宜トスルニ有ル心ニ  
此場合ニ於テハ当事者ノ合意ヲ以テ特ニ評價  
ヲシテ臺買ノ効力ヲ有セシムルヲ得心ニ代替  
物ノ評價ニ臺買ノ効力ヲ有セサラシムルト  
キハ用益権消滅ノ時用益者ノ償還ニヘキハ當  
初受取リタルモノニ訛ルシテ是レト同種類ノ

ル物ノ同一ノ量數ナリトス蓋ニ初ヨリ用益物  
特定セラレガレハナリ之ニ及ニテ特定物ノ評  
價ニ差置ノ効カヲ附シタルトキハ用益者ハ必  
ズ其評價額ヲ返還スルコトヲ要シ所有者ハ此  
金額ニ非ラサレハ法ホズルコトヲ以ズ

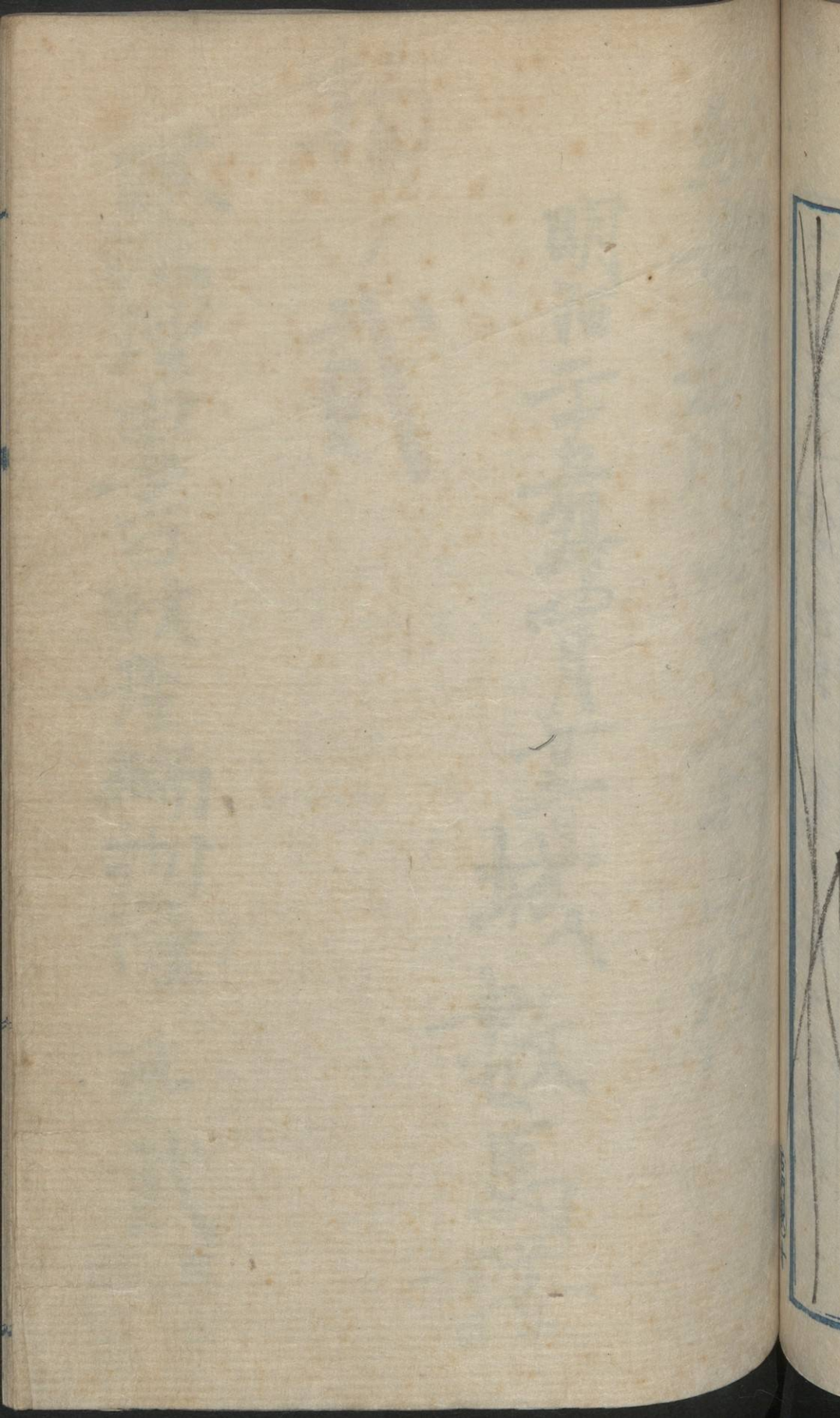
目錄及ビ評價ニ用益者及ビ虚有者ヲ以テ互ニ  
不当ノ争ヒヲ避クルコトヲ得セシムル为人有  
益ナルヲ以テ法律ニ其費用ヲ兩分シ用益者及  
ビ虚有者ヲ以テ各々其一分ヲ負擔セシムルコ  
トヲ得ベキカ如シ然レドモ法律ハ此方法ヲ用

ヒズシテ一箇ノ區別ヲ爲セリ即チ用益權ガ設

トヲ得ベキカ如シ然レトモ法律ハ此方法ヲ用

ヒズレテ一個ノ區別ヲ為セリ即チ用益権ガ設  
定セラレタル原因ノ有債ナルト無債ナルトニ  
從ツテ區別セリ若シ有債ナル場合ニ於テハ目  
録及び評價ノ費用ハ当事者双方ヲシテ之ヲ方  
担セシムト多ク無債ノ設定ノ場合ニ於テハ用  
益者ノニ費用ノ全部ヲ負担スルモノトス是レ  
實ニ其當ヲ得タルモノト認フベシ何トナレハ  
有債ノ設定ノ場合ニ於テハ是ニ由テ利スル所  
人<sup>モ</sup>ノ當事者双方ナルカ故ニ費用モ亦双方之  
ヲ方担スルコト勿論ナレトモ無債ノ設定ノ場

合ニ於テハ用益者ノ三独リ其利益ヲ受クルカ  
故ニ費用又亦一人ニテ足担スルコトヲ要ス不  
動産ノ形状書ニ定テハ其設定ノ有債ト無債  
トヲ別ハズ費用ハ凡テ用益者一人ノ負担ト爲  
ス何トナレハ形状書ハ常ニ用益者ノ利益ノ爲  
ニ之ヲ作ルモノナレバナリ若シ形状書ナキ時  
ハ用益者ハ不動産ヲ完好ナシ形状ニ於テ受取  
タル者トシ推定ヲ受クルカ故ニ用益者ノ之ヲ  
作ル利益ハ主トシテ此推定ヲ受カルニ在リ



紙  
數  
卷  
拾  
卷  
文